

## 令和4年度 第1回山梨県考古博物館協議会議事録

1. 日 時 令和4年3月8日(水) 14:00～16:20
2. 場 所 風土記の丘研修センター 講堂
3. 出席者(敬称略)
  - (委 員) 新津健、岡美広、棚橋雅一、荻野三穂、安出光伸、笠井大介、中村京子、白須慶子、南初美、小林昭治、山下孝司、保坂康夫、馬場由美
  - (事務局) [考古博物館] 高橋館長、高橋副館長、保坂次長、野代学芸課長、塩谷リーダー、柴田リーダー、笠原リーダー
4. 会議次第
  - (1) 開会
  - (2) 任命状交付
  - (3) 館長あいさつ
  - (4) 委員紹介
  - (5) 事務局職員等紹介
  - (6) 正副議長の選任
  - (7) 議事
  - (8) 閉会
5. 会議に付した事案等について
  - 令和3年度 考古博物館事業実績について
  - 令和4年度 考古博物館事業経過について
  - 令和5年度 考古博物館予定事業について
  - 常設展・特別展・企画展の展示方法について
  - 考古博物館利用状況について
  - その他
6. 議事録の概要
  - 令和3年度 考古博物館事業実績について
    - ・冒頭事務局より考古博物館に関する説明があった。

(委員) 火起こし体験をはじめとした体験活動については、山梨県の小中学生に浸透している素晴らしい取り組みだと思う。外国人にも提供してみてもどうか。まずは県内のALT教員へのPRが効果的だと思う。

(事務局) 参考にさせていただく。

(委員) 年間事業計画の企画は誰が行っているのか。また、各展示について来場者の目標を設定しているか。

(事務局) 事業計画については、館長と当館の4名の学芸員が行っている。来場者の目標については、過去の来場者数を参考に設定しているが、コロナ禍で達成が難しい状況がある。

(委員) ものづくり体験で作ったものは、利用してもらえているのか。

(事務局) 利用いただいていると認識している。つくったものをアクセサリとして身につけている方や、家で飾ってくださる方がいる。体験では、凝ったものを作る方も多く愛着を持ってくれているようである。

(委員) 各企画について、webを利用した配信は実施しているのか。

(事務局) 実施している。web配信については、フェイスブック等で情報発信している。

#### ○令和4年度 考古博物館事業経過について

・冒頭事務局より説明があった。

(委員) 美術館の縄文展は素晴らしかった。収蔵品貸し出し時には、貸出先の展示において、貸出元施設のチラシ等が並んでいたら効果的なPRになるのではないかと感じた。

(事務局) 当館としては依頼しているが、最終的には貸出先の判断になってしまう。

(委員) 令和3年度に行ったナイトミュージアムについて、令和4年度に実施しなかった理由はあるか。復活に向け検討いただきたい。

(事務局) コスト面での課題があり、今年度は不実施だが、復活できるか検討したい。

(委員) 古代衣装の貸し出しにおける学校選出の基準はあるのか。地域間の偏りはないか。

(事務局) 学校側からの希望に沿ってお貸ししている状況。当館としては、全学校への案内を実施している。地域的な偏りの原因としては、立地的な問題もあるかもしれない。

#### ○令和5年度 考古博物館予定事業について

・冒頭事務局より考古博物館に関する説明があった。

(委員) 山の州文化財交流展は、静岡、長野、新潟でも同じ名前で実施されるのか。

(事務局) 実施される。

(委員) 入館料はかかるのか。

(事務局) 特別展は有料。企画展は無料公開している。オンラインはすべて無料配信。

(委員) 北杜市梅之木遺跡の企画と連携した企画や、長野県と連携した両県小学生の交流企画もできれば面白いのではないかと思う。

(事務局) 参考にさせていただく。

#### ○常設展・特別展・企画展の展示方法について

・冒頭事務局より考古博物館に関する説明があった。

(委員) 40周年、50周年に向け、3,000点以上の収蔵品を抱える考古博物館でも、適切な管理体制を整えてほしい。限られた人員で物品を管理するのは難しいと思う。物品の管理について十分な予算をつけて、対策をとってほしい。

(事務局) 過去に当館で起こった盗難事件も踏まえ、鍵使用簿による管理、管理責任者の設置、防犯カメラ設置等の体制整備を行っているところ。今回の美術館での事件も踏まえ、ソフト面、ハード面含め、今後の収蔵品管理の強化に向けた対応を行いたい。

(委員) 是非予算をつけて体制整備を行い、県民の財産を守るようなシステムを構築してもらいたい。

#### ○考古博物館利用状況について

・冒頭事務局より利用人数の実績について報告があった。

(委員) コロナ禍の影響もあったものと思われる。コロナ収束に伴い、徐々に利用者が増加すると思うので、効果的なPR行ってほしい。

(事務局) 適切なPRを実施していく。

(委員) 世界的な課題も視野も取り入れ、例えばサステナブルな観点を取り入れるのも良いと思う。

(事務局) 参考にさせていただく。

(委員) 教育的な視点が強いと感じた。観光という観点から、外国人利用者増加に向け、サステナブルツーリズムや高付加価値化を視野に入れた経営改善等は考えているか。

(事務局) 令和2年度から、考古博物館は県観光部の組織となった。まずは地域経済の活性化に取り組んでおり、周辺施設を巻き込んだスタンプラリー事業を実施している。今後は対象を広げた取り組みを行い、外国人も視野に入れた取り組みを検討したい。

(委員) 外国人の方が興味を持っている財産を持っていると思う。まずは多言語でのPRが有効だと思う。また、財源確保として、寄付を募るのも手だと思う。キャッシュレスで寄付できる仕組みも考えられると思う。

(事務局) 外国の方に対する措置として、ARミュージアムでの複数言語での対応や、複数言語でのパネル設置等を行う予定である。寄付については今後検討してみたい。

○その他

- ・スタンプラリーについて
  - ・冒頭事務局より説明があった。
- ・委員からの意見等はなし。

以上